

2017年7月20日

各 位

会社名 株式会社 キャンバス
代表者名 代表取締役社長 河邊 拓己
(コード番号:4575 東証マザーズ)
問合せ先 取締役最高財務責任者兼管理部長
加登住 眞(電話 055-954-3666)

CBP501作用メカニズムに関する論文のOncotarget誌への掲載について(2報め)

2017年6月23日に掲載された論文^{※1} に続き、米国の有力な論文誌Oncotarget^{※2} オンライン版に、当社が開発中の抗癌剤候補化合物CBP501の作用メカニズムに関する2報めの論文が掲載されましたので、お知らせいたします。

“CBP501 suppresses macrophage induced Cancer Stem cell like features and metastases”

《抄録》 全文(PDF・HTML)へのリンクもこのページに掲載されています。

<http://www.impactjournals.com/oncotarget/index.php?journal=oncotarget&page=article&p=view&path%5b%5d=19292>

この論文では、CBP501がマクロファージによる癌幹細胞増加作用や転移促進作用を抑制することを示しました。

これにより、CBP501は、既に明らかになっていた細胞周期G2チェックポイント阻害によるDNA損傷修復抑制作用、カルモジュリン阻害によるプラチナ細胞内濃度上昇を通じたDNA損傷増加作用、先月公開された論文で発表したカルモジュリン阻害による癌細胞の遊走・浸潤・上皮間葉移行阻害に加えて、**癌微小環境で癌の増殖を助けているマクロファージを抑制して癌幹細胞増加や転移を抑制する作用**が期待されることが示されました。

当社は、これらの作用を示す実験結果が有力な査読雑誌に掲載されたことは、準備中のフェーズ1b臨床試験^{※3}の基礎となっている我々が樹立した作業仮説の確からしさを高め、CBP501の抗癌剤としての有望さを改めて客観的に示したと考えています。

なお、CBP501は現在、免疫チェックポイント阻害抗体ニボルマブ(商品名:オプジーボ)とシスプラチンとの3剤併用による臨床試験(フェーズ1b試験)の開始準備の段階にあります。

以上

※1 『CBP501作用メカニズムに関する論文のOncotarget誌への掲載について』 2017年6月23日公表
<http://v4.eir-parts.net/v4Contents/View.aspx?cat=tdnet&sid=1488473>

※2 Oncotarget誌は、Impact Journal社が2010年に創刊した、癌の分子標的治療領域で高い評価を受けている査読つき医学論文誌です。
<http://www.impactjournals.com/oncotarget/index.php?journal=oncotarget>

※3 現在準備中のフェーズ1b試験の内容については、ClinicalTrials.govをご参照ください。
“CBP501, Cisplatin and Nivolumab in Advanced Refractory Tumors”
<https://clinicaltrials.gov/ct2/show/NCT03113188>

当社の抗癌剤候補化合物CBP501は、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)の助成事業の結果得られた「堅牢な合成方法」を活用して製造しています。